

放物線の焦点を通る直交2直線【類題】

放物線 $C: y^2 = 4px$ ($p > 0$) の焦点 $F(p, 0)$ を通る2直線 l_1, l_2 は互いに直交し、 C と l_1 は2点 P_1, P_2 で、 C と l_2 は2点 Q_1, Q_2 で交わりとする。

$\frac{1}{P_1P_2} + \frac{1}{Q_1Q_2}$ は l_1, l_2 のとり方によらず一定であることを示せ。

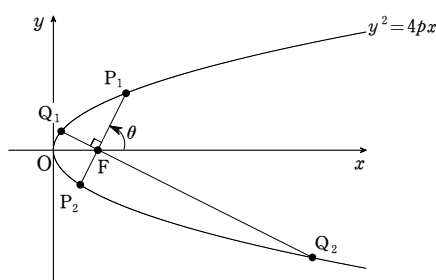
< '13 早稲田大 改 >

【戦略】

例題と同様に、焦点 F を極とする極座標を考えます。

この放物線の極方程式 $r = \frac{2p}{1 - \cos\theta}$ が得られれば例題同様に計算できます。

【解答】



F を極、 x 軸の $x \geq p$ の部分を始線とする極座標を考える。

$P_1(r_1, \theta)$ とすると、

$$Q_1\left(r_2, \theta + \frac{\pi}{2}\right), P_2(r_3, \theta + \pi), Q_2\left(r_4, \theta + \frac{3\pi}{2}\right)$$

とおける。

直交座標において、 $P_1(X, Y)$ ($X \geq 0$) とする。

$$\begin{aligned} \overrightarrow{FP_1} &= \overrightarrow{OP_1} - \overrightarrow{OF} \\ &= \begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} p \\ 0 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} X-p \\ Y \end{pmatrix} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{FP_1}| &= r_1 \text{ より, } r_1 = \sqrt{(X-p)^2 + Y^2} \\ &= \sqrt{(X-p)^2 + 4pX} \\ &= \sqrt{X^2 + 2pX + p^2} \\ &= \sqrt{(X+p)^2} \\ &= |X+p| \\ &= X+p \quad (\because X \geq 0, p > 0) \end{aligned}$$

$X = p + r_1 \cos\theta$ であるため

$$\begin{aligned} r_1 &= p + r_1 \cos\theta + p \\ &= r_1 \cos\theta + 2p \end{aligned}$$

$$\text{これより, } r_1 = \frac{2p}{1 - \cos\theta}$$

同様にして

$$r_2 = \frac{2p}{1 - \cos\left(\theta + \frac{\pi}{2}\right)} = \frac{2p}{1 + \sin\theta}$$

$$r_3 = \frac{2p}{1 - \cos(\theta + \pi)} = \frac{2p}{1 + \cos\theta}$$

$$r_4 = \frac{2p}{1 - \cos\left(\theta + \frac{3\pi}{2}\right)} = \frac{2p}{1 - \sin\theta}$$

という結果を得る。

これより

$$\frac{1}{P_1P_2} + \frac{1}{Q_1Q_2} = \frac{1}{r_1 + r_3} + \frac{1}{r_2 + r_4}$$

ここで、

$$\begin{aligned} r_1 + r_3 &= \frac{2p}{1 - \cos\theta} + \frac{2p}{1 + \cos\theta} \\ &= 2p \left(\frac{1}{1 - \cos\theta} + \frac{1}{1 + \cos\theta} \right) \\ &= 2p \cdot \frac{(1 + \cos\theta) + (1 - \cos\theta)}{(1 - \cos\theta)(1 + \cos\theta)} \\ &= 2p \cdot \frac{2}{1 - \cos^2\theta} \\ &= \frac{4p}{\sin^2\theta} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} r_2 + r_4 &= \frac{2p}{1 + \sin\theta} + \frac{2p}{1 - \sin\theta} \\ &= 2p \left(\frac{1}{1 + \sin\theta} + \frac{1}{1 - \sin\theta} \right) \\ &= 2p \cdot \frac{(1 - \sin\theta) + (1 + \sin\theta)}{(1 + \sin\theta)(1 - \sin\theta)} \\ &= 2p \cdot \frac{2}{1 - \sin^2\theta} \\ &= \frac{4p}{\cos^2\theta} \end{aligned}$$

よって、

$$\begin{aligned} \frac{1}{P_1P_2} + \frac{1}{Q_1Q_2} &= \frac{\sin^2\theta}{4p} + \frac{\cos^2\theta}{4p} \\ &= \frac{1}{4p} \text{ (一定値)} \end{aligned}$$

となり、 $\frac{1}{P_1P_2} + \frac{1}{Q_1Q_2}$ は θ によらず一定となることが示された。

また、その一定値は $\frac{1}{4p}$ … 〇

【総括】

最後のオチの式が少し変化しただけで、例題とほぼ同じ要領です。

なお、直交座標表示のまま計算するとなると、少し大変です。

直線 l_1 を $x = ay + p$, $P_1(x_1, y_1)$, $P_2(x_2, y_2)$ とします。

l_1 と放物線 C の式を連立すると, $y^2 - 4apy - 4p^2 = 0$ を得ます。

この2解が y_1, y_2 ですから, 解と係数の関係より

$$\begin{cases} y_1 + y_2 = 4ap \\ y_1 y_2 = -4p^2 \end{cases}$$

となります。

$$\begin{aligned} P_1 P_2 &= (x_1 - x_2)^2 + (y_1 - y_2)^2 \\ &= \{(ay_1 + p) - (ay_2 + p)\}^2 + (y_1 - y_2)^2 \\ &= (a^2 + 1)(y_1 - y_2)^2 \\ &= (a^2 + 1)\{(y_1 + y_2)^2 - 4y_1 y_2\} \\ &= (a^2 + 1)\{16a^2 p^2 + 16p^2\} \\ &= 16p^2(a^2 + 1)^2 \end{aligned}$$

ということになり, $P_1 P_2 = 4p(a^2 + 1)$ を得ます。

l_2 は l_1 と直交するため, $x = -\frac{1}{a}y + p$ と表すことができ, 同様に

$$\begin{aligned} Q_1 Q_2 &= 4p\left(\frac{1}{a^2} + 1\right) \\ &= \frac{4p(a^2 + 1)}{a^2} \end{aligned}$$

を得ますから

$$\begin{aligned} \frac{1}{P_1 P_2} + \frac{1}{Q_1 Q_2} &= \frac{1}{4p(a^2 + 1)} + \frac{a^2}{4p(a^2 + 1)} \\ &= \frac{a^2 + 1}{4p(a^2 + 1)} \\ &= \frac{1}{4p} \end{aligned}$$

と所望の結果が得られます。

やはり, 斜めの距離に対する極座標の威力は大きいですね。